

### 自家菜園 7年目の野菜たち

ミニ農園を始めて7年目に入った。夏野菜が最盛期の今、スイカ、トマト、キュウリ、ナス、ピーマン、シシトウ、インゲンが例年になくよく出来ている。特にスイカは写真(右はテニスボール)のように重さ10キロの“お化けスイカ”が穫れた。年寄り夫婦二人の我が家では、切って冷蔵庫に入れておき、おやつはいつもスイカで2週間近く続いた。



トマト、キュウリ、ナスは近所へお裾分けや都心に住む子供達に送ってあげている。特にキュウリは収穫が1日遅れると30センチを越え黒太くなってしまう。美味しいのは20センチ以下で先に花の残りがついている若いものだ。これに味噌をつけてかじるのは堪えられない。

見事に赤くなったトマトの列を見て畑仲間から「お上手ですね」なんて声もかかる。そんなときは「ええ、百姓のせがれですから。子供の時いつも農作業を手伝わされて、その記憶が半世紀過ぎた今も残っているかも」なんてお愛想を返す。信州の伊那谷では今も長兄が畑で汗を流している。



その郷里の高校の同期仲間にはメール網があり活発な通信がある。同好会の呼びかけや報告、健康管理の工夫、各地の写真レポートなど。自家菜園の仲間も結構いて、ときたま自慢野菜の写真が送られてくることがある。



借地料、農具や棚などの材料費、肥料、種苗・・・と計算していくとスーパーで買った方が安上がりになることもあるだろうが、太陽の下で土いじりは健康にもよく野菜の育っていくのも楽しみだ。孫達がスイカにかぶりついている写真やお裾分けの際の褒め言葉に励まされて、また暑いなか畑へと出かけていく。

2009年10月17日 朝日新聞(朝刊)

### 男ひととき

定年後、いつかは家庭菜園をやろうと思っていた。先日、ある集いに友人が「我が菜園からですよ」とミニトマトを持参。そのおいしさに刺激され、9月初めに貸農園を契約した。歩いて10分ほどの広さ30平方尺の一区画。さつそく苦土石灰をまき、整地を済ませ、秋分の日に妻と作業に取りかかった。

腐葉土をまき、畝を作る。白菜、キャベツ、ブロッコリー、ホウレンソウ、春菊、大根、サラダ用タマネギの種をまき、最初の3種は苗も5本ずつ植えた。借地料や農具、肥料、病害虫の駆除用品の出費を考えると、スーパーで野菜を買った方が経済的かもしれない。でも、無農薬と新鮮

### 家庭菜園1カ月

さ、土に親しむ快い疲れ、それに作る喜びが採算を度外視させてくれる。畑仲間との野菜作り談議もこれから楽しみだ。

周囲には同じような広さの区画が20ほどあるが、なぜか半分以上は女性だけで農作業をしている。契約の時は夫も顔を出したが、あとは妻任せといったところだろうか。せつかくの土の感触と、太陽がもったいな

いなあ。

野菜の作り方を紹介するテレビ番組によれば、家庭菜園に取り組む人口は近年ぐんと増えつつある、とのこと。自分もその一人に加わったわけだ。時々手入れに行きながら、この人にも、あの人にもと、おすそ分けの夢を描いている。

東京都昭島市

清水 武

著述業 68歳

m-hitoiki@asahi.com